

## (第10回) 自然観察会 (大磯周辺)

恒例の自然観察会は3月16日(金)に大磯周辺で行われました。当日の天気予報は“曇りのち雨”でしたが、幸いにも全く降られず全行程を歩くことができました。

9時半大磯駅に集合、事務局含め総勢34名、2台の路線バスに分乗し県立大磯城山(じょうやま)公園へ。公園は道路を挟んで旧吉田茂邸地区と旧三井別邸地区で成り立っています。まず旧吉田茂邸を訪れました。ここは吉田茂が昭和19年から同41年(没年)まで過ごした邸宅ですが平成21年に焼失し昨年4月に再建されたものです。元の設計図通りに作られたまだ真新しい木の香りする建物です。種々の文物も再度集められ、なかなか見応えのある邸内でした。

このあと旧三井別邸地区へ向かいました。この公園は明治31年に三井財閥当主が別荘を構え広い敷地には壮大な城山荘や茶室、登り窯などが点在していたのですがその後の変遷で荒廃していたものを県立公園として平成3年に開園したものです。坂を登り展望台へ。富士山や箱根連山の眺望を期待したのですがあいにくの曇り空、相模湾、伊豆半島、初島を眺めるだけでした。展望台から下り園内に多数ある縄文時代の横穴墓群のいくつかを見学、大磯町郷土資料館へ立ち寄り発掘された土器や棺を観ることができました。また大磯は明治から昭和初期にかけて多くの政治家、財界人、文筆家などが別荘を構えた地区であることも知りました。

バスで移動し旧島崎藤村邸を訪れました。昭和17

年に平屋三部屋のこじんまりした住居を購入し、“静の草屋”と名づけ昭和18年8月に亡くなるまで住み、その後も静子夫人が昭和48年まで暮らしたところです。

次は歩いて国道を越え、嶋立庵(しぎたつあん)です。

平安末期の歌人、西行法師が詠んだ新古今和歌集の三夕の歌の一つ『心なき身にもあはれは知られけり嶋立沢の秋の夕暮れ』に由来する場所です。江戸初期に小田原の崇雪(外郎店の店主だった)がこの地に嶋立沢の標石を建て草庵を結んだのが始まりとされています。その後、俳諧師“大淀三千風”が庵主第一世として入庵以来、日本三大俳諧道場の一つとして現在の第二十二世まで続いているそうです。ここでは二人のボランティアによる詳しい解説を聞くことが出来ました。

時刻も十二時を過ぎ昼食会場の“汐彩のお宿・大内館”(明治33年創業)へ向かいました。大阪から参加された山本順英氏の音頭による乾杯で宴が始まりました。3時間の行程で適度の疲れと渴きに実に美味しいビールでした。料理もなかなかのもので、例によってお酒とビールがどんどん運ばれ楽しい打ち上げ会となりました。

現地解散後は有名な蒲鉾や和菓子、駅前のパン屋等で土産を求め、ほろ酔い気分それぞれ車中の人となりました。一部の人は駅前の澤田美喜記念館(エリザベスサンダースホームの設立者の功績である隠れキリシタン遺物の資料館)を訪れました。

(宮本 盛規・記)

